

韓国環境部プレスリリース 2019年11月13日付

以下、機械翻訳などによる仮訳

## 江原道鉄原郡遠南面のイノシシへい死体2体からASFウイルス検出 (野生いのしし24・25例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1094390&menuId=286>

### 【本文】

環境部所属の国立環境科学院（院長チャン・ユンソク）は江原道鉄原郡遠南面榛峴里18番地で発見されたイノシシへい死体2体からASFウイルスが検出されたと11月13日明らかにした。

11月12日午後2時頃、軍部隊は捕獲檻で捕獲されたイノシシの埋葬作業途中、周辺にいたイノシシへい死体を発見して申告した。当初1個体と申告されたが、科学院は試料の採取過程で下に敷かれていた子供のイノシシの死体を追加で発見した。鉄原軍と軍部隊は、野生イノシシASF標準行動指針に従って、現場を消毒して死体を埋却処理した。

科学院は11月13日正午に2つのへい死体でASFウイルスを最終確認し、その結果を関係機関に通報した。これで、鉄原は、11例目、全国的には25例目の野生イノシシASFウイルスが検出された。

チョン・ウォンファ国立環境科学院・生物安全研究チーム長は「今回の検出地点は既に設置された1次フェンス内であり、10月12日に鉄原で初めてASFが確認された榛峴里115番地と200メートル離れた地点」として、「フェンスの中では、当面の間、感染したへい死体が出る可能性があるため搜索を徹底する」と話した。

(以上)